

令和3年度  
ウッドシティTOKYOモデル建築賞  
受賞作品集

発行  
令和4年3月

発行者  
東京都産業労働局 農林水産部 森林課  
東京都新宿区西新宿2-8-1(電話:03-5320-4855)

制作  
株式会社ジェイレック

協力

株式会社三浦工務店  
株式会社浅井アーキテクト一級建築士事務所  
東急電鉄株式会社  
株式会社アトリエユニゾン  
清水建設株式会社  
大成建設株式会社一級建築士事務所  
株式会社東急設計コンサルタント  
東急建設株式会社  
宗教法人浄真寺  
山田伸彦建築設計事務所・株式会社スタジオテラ設計共同体  
株式会社パーク・コーポレーション parkERs  
株式会社養生堂企画  
株式会社ベネフィットライン  
野村不動産株式会社  
野村不動産株式会社一級建築士事務所  
戸田建設株式会社東京支店  
(順不同)

R70  
五割ハルパ配合率70%再生紙を使用  
リサイクル適性  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

登録番号(3)18



令和3年度  
ウッドシティ  
TOKYOモデル  
建築賞  
受賞作品集



東京都

TokyoTokyo  
Old meets New

# ウッドシティ TOKYOモデル 建築賞について

## 概要

東京都では、木材の大消費地・東京において、新たな木材需要を喚起することで、多摩地域をはじめ全国の森林循環を促進し、林業・木材産業の成長を図ることを目指しています。この度、大都市東京において木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物又は木質空間を表彰するコンクールを実施しました。

## 応募対象

- ・東京都内に所在すること。
- ・公開可能な非住宅の施設であること。
- ・構造材や内装材などの全部又は主要な部分に国産材を使用していること。
- ・直近5年以内（平成28年4月1日から募集開始の前日まで）に竣工した木造及び混構造建築物、又は直近5年以内に木質化した空間。
- ・建築基準法等各関係法令を遵守していること。
- ・同一の建築コンクール等において、知事賞や大臣賞の受賞歴がないこと。

## 審査における着眼点

- ・国産材の特徴や良さを活かし、有効活用しているもの
- ・先進的な木材利用の普及に寄与するもの
- ・都市部における建築物の木造化、木質化への波及に寄与するもの
- ・建築物又は木質空間として優れたデザインであるもの
- ・建築等の過程において女性が活躍したもの（女性活躍賞のみの着眼点）

## 表彰

優秀作品については、東京都知事賞（最優秀賞：1点・優秀賞：1点・女性活躍賞：1点）、産業労働局長賞（奨励賞：7点）を贈呈しました。P3より紹介します。

## 審査経過

- ・令和3年7月1日～9月10日 作品募集
  - ・令和3年11月22日 審査
  - ・令和4年2月1日 受賞作品の発表
- ※上記日程にて表彰式を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

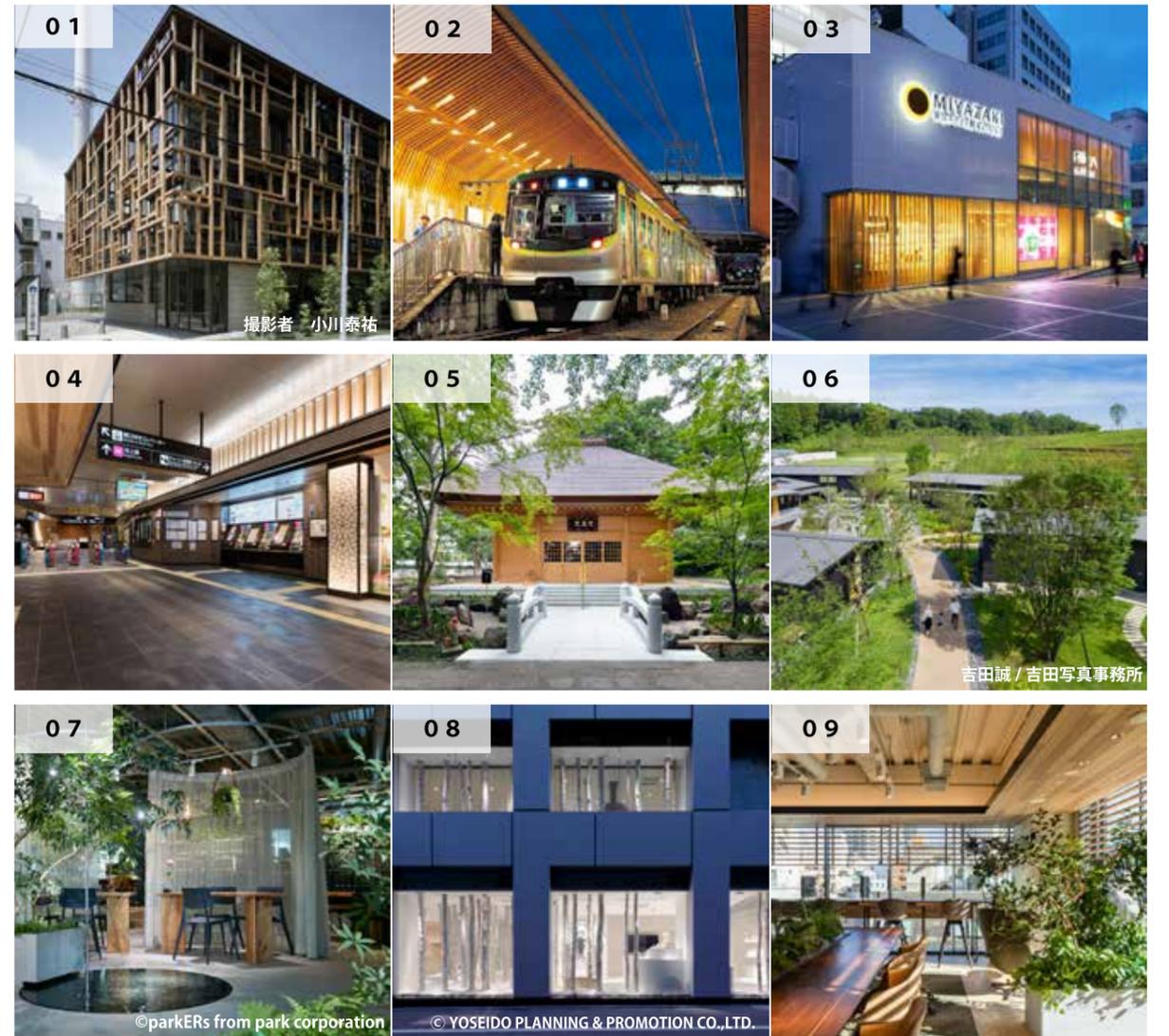
## 審査委員（五十音順）

- ・秋山 延江 氏  
（一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会 副会長）
- ・多幾山 法子 氏  
（東京都立大学大学院都市環境科学研究科建築学域 准教授）
- ・原田 真宏 氏  
（株式会社マウントフジアーキテックススタジオ一級建築士事務所主宰建築家、芝浦工業大学建築学部建築学科 教授）
- ・古谷 誠章 氏  
（早稲田大学創造理工学部建築学科 教授）
- ・東京都産業労働局 農林水産部長

# ウッドシティ TOKYO モデル建築賞 受賞作品集

## 目次 — CONTENTS

最優秀賞	奨励賞
01 株式会社三浦工務店本社ビル…………… 3	04 東急池上線池上駅…………… 9
	05 九品仏浄真寺閻魔堂…………… 11
優秀賞	06 町田薬師池公園四季彩の杜 西園ウェルカムゲート…………… 13
02 東急池上線旗の台駅…………… 5	07 parkERs office …………… 15
女性活躍賞・奨励賞	08 YOSEIDO 銀座店 …………… 17
03 新宿みやざき館 KONNE…………… 7	09 H <sup>1</sup> O平河町…………… 19
	受賞作品所在地情報…………… 21



※受賞作品掲載の図面中の縮尺表示について  
一部の図面中にある縮尺表記は受賞者から提供された図面原本のものです。  
図面原本を本誌のサイズに合わせ縮小など行いレイアウトしていますので、紙面上で縮尺は正確ではありません。



撮影者：小川泰祐



撮影者：鈴木文人

# 01

## 最優秀賞 株式会社三浦工務店本社ビル

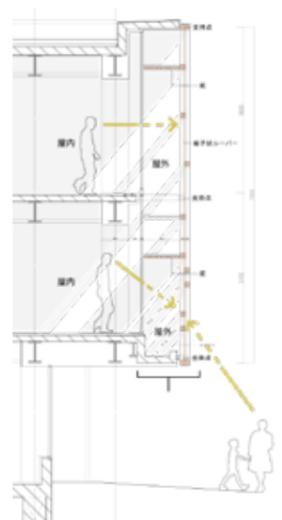
受賞者  
 施主・施工者 株式会社三浦工務店  
 設計者 株式会社浅井アーキテクツ級建築士事務所

まちづくりを支える地域密着型工務店の本社ビルの在り方を考えるプロジェクト。施主は足立区の住宅街で1963年に創業、現在も同区と周辺エリアの街の発展に貢献していくことを使命と捉え、総合建築業を展開している企業である。創業55年を超え、分散・老朽化した事務所を集約、住宅街である創業の地での建替えが計画された。本建物は地盤、耐火要求の制約で鉄骨造となったが、創業者自身が大工であり、木材への愛着ある精神が脈々と流れ現在も寺社仏閣などの木造建築を得意とすることから、地域の人々の目に見える形で木材への愛着を表したく、外装に使用する挑戦となった。

また、技術的に新しい挑戦として、有機的なアルゴリズムデザインと伝統工法の合作にチャレンジした。二重の木格子と庇のファサードは、環境負荷低減として日射遮蔽50%、居室を密になるよう検証した。施工も自社専属大工が担い、窒素熱処理で耐候性を高めた三寸五分のヒノキ材を伝統的仕口により手作業で一本一本組み上げた。これが内部と近隣との間の視覚的、心理的な緩衝帯をつくり双方にとって快適な環境を実現し、地域のランドマークとなっている。

木材は内部空間にも様々なに使用し、顧客、社員、協力会社へ木材活用の楽しさ・快適さを伝えている。執務空間に構造用合板、シナ合板、タモ集成材等、受付カウンターには、創業者の集めた厚み8cmの11種類の無垢材を使用し手で触れられるデザインとした。

### ファサードを視覚・心理的な緩衝帯となる二重木格子で覆い、周辺住宅地と事務所双方に快適さをもたらす



撮影者：小川泰祐

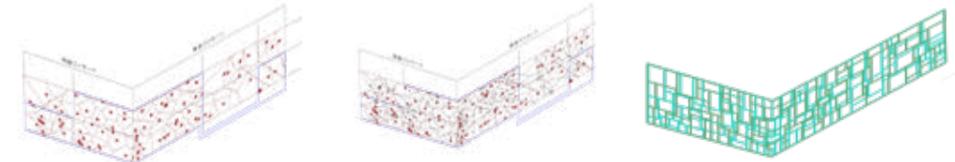
2階会議室と周辺住宅地のあいだの、庇付きの二重の木格子が緩衝帯となる。



## 有機的アルゴリズムデザインと伝統工法の合作にチャレンジ

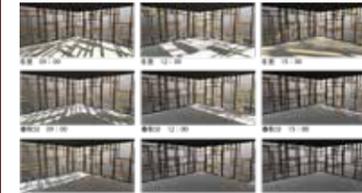
自社専属大工のチームが、三寸五分の角材を一本一本、手作業ではめて、立面2面に渡る切れ目のないファサードを完成させたことは、社員のプライドに訴える効果も大きかった。

①アルゴリズムエディタ（グラスホッパー）によって、居室が密で、非居室が疎になるよう格子形状をデザイン



1. 室が非居室の2倍になるよう、ポロノイの母点を発生させる。
2. ポロノイの領域境界のメッシュを2パターン作成し2重に重ねる。
3. メッシュを矩形に変換、居室が密で、非居室が疎なモデルが出来た。

②環境性能を検証



日射遮蔽は、春秋分時の日射面において、木格子ルーバーのみの場合で約25パーセント、庇込みで約50パーセントの遮蔽を目指した。

③デザイン情報を正確かつ大量に処理するため、工場では3.5寸角のひのき材をプレカット



在来木造の仕口をそのまま使い、交点をほぞ差し、格子が二重になる部分を渡り頭とした。



④普段は木造建築を主に担当する大工チームによる、現場での追加加工と組み立て



工場加工出来ない仕口をノミと金槌で仕上げ



組立ては最上段から吊り下げる手順とした



縦材、横材の組み合わせを検証し、ジグソーパズルのように組み上げた

## 外部・内部で様々な木質空間の提案を行い、お客様・社員・協力会社へ木材活用の楽しさ・快適さを伝えている



撮影者：小川泰祐

敷地東南。高度な社寺建築も得意とする工務店として、目に見える形で木造の技術が表れる空間を継ぐ。前庭スペースはお祭りなど地域行事にも使用する。



撮影者：鈴木文人

東面道路からの見え方。道を行き交う方々にも、木質空間の良さを風景として体験してもらえる外観。二重木格子の効果で、オフィスから見られている感じはしない。



撮影者：鈴木文人

【木素材を多用した執務空間や打合せコーナー】構造用合板、シナ合板、タモ集成材等、内装・棚やロッカーなどの家具にも多くの種類の木材を使用している。



撮影者：鈴木文人

3階コミュニケーションコーナーは社員のランチ、社内外のミーティング、セミナー、家族を招いてのイベント、コンサート、そば作り体験教室などに使われている。



### 受賞概要・講評

足立区所在の総合建築会社が、創業55年を迎え本社ビルの建替を行ったもの。岐阜県産のヒノキを外装のルーバーや庇等へ活用している。雨水による腐食対策として「窒素熱処理」を材全体に施し、またアルゴリズムによりデザインした格子形状が、オフィス内の日射量を部屋ごとにコントロールしている。

本作品については「木の存在を人々へ認識させる外観のインパクト」「アルゴリズムによる二重木格子のデザインが遮光効果を確保すると共に、彫りの深さを印象付けている点」等が評価された。



## 02

### 優秀賞 東急池上線旗の台駅

東急池上線旗の台駅は開業以来約70年の間、地域住民に親しまれ、人々の暮らしを支えてきた。一方、施設の老朽化と利用者数の増加に伴う朝ラッシュ時の旅客流動上の課題を抱えていた。本プロジェクトは、これらの課題を解決するとともに、多摩産材を活用した温かみのあるデザインの空間を設えることで利用者の同駅への愛着を醸造することを目的としたリニューアルである。

新たに建て替える屋根は軌道側に対して架構を開いた構造計画とし、ホーム上に設置される柱の本数を出来る限り少なくするなど、乗降客の動線に最大限配慮した。365日電車の運行・駅施設の利用を維持しながら建替工事を実施するため、既存屋根を残したままその上部に新しい屋根を組み上げる架構とした。

木造の架構は、施工ヤードの狭さや作業効率などを意識し、重機で建て入れる大判CLTと、軽量で一人でも取りまわし可能な定尺材から切り出した105mm角の製材を併用した。夜間工事が必須となる施工条件や、隣地が迫る狭小な敷地条件への対応から、可能な限り人力で施工が行えるようにしたものである。小径材の採用は、空間的に軽やかな印象を与えることも意図している。木材を「あらかし」とすることで、木の肌合いやあたたかさを利用者が身近に感じ、経年変化により愛着がわくホーム空間を実現した。地域産木材（多摩産材）の活用を推進し、都市部における多量の炭素貯蔵に貢献する等、木質材料特有の長所を最大限に活用した。



受賞者  
 施主 東急電鉄株式会社  
 設計者 株式会社アトリエユニゾン  
 施工者 清水建設株式会社

### 複数の素材と工法を生かした構造計画

東京都の地域産材である多摩産スギ及びヒノキの有効活用を念頭に計画し、ホーム全長（最大約69m）に多摩産ヒノキの105mm正角材を300mm間隔で並べた支点桁架構と方杖庇によって片流れ屋根を支える木造上家とした。背面の壁面は、多摩産スギで製作した大判のCLT（厚150mm、幅1.2m、高さ約4~6m）と小判サイズ（幅0.6m）のCLTを交互に並べたものである。大判のCLTは、1.8m間隔で高さ約2.5mのRC造の連壁に設けたリブの間に落とし込んで一体化し、CLTの柱脚をコンクリート基礎で拘束した掘立壁柱とした。大判のCLTの間には、小判のCLTを挿入して、大判と小判サイズのCLTを交互に並べ、RC造の連壁と一体となったCLT連続壁が105角製材の支点桁架構を受ける構成である。

一方、開放的なホームの軌道側は、10.8~14.4mスパンで組んだ鉄骨ラチス梁を径100mmの丸鋼柱で支持し、平角材で挟み込んだ鉄骨ラチス梁の上下弦材に対して、支点桁架構や方杖庇を構成する105角の材を渡り頭で預けて緊結した。支点桁や方杖庇の継手仕口は、在来軸組工法用プレカットを多用し、ホゾ差しに対し木質構造用ねじで緊結したシンプルなものとし、複雑な加工や特殊な製作金物が不要なディテールとすることで工場加工や建方時の作業の効率化を図った。



▲リニューアル前・既存上家の様子

### 【工事の様子】



▲既存上家の上部に新設の上家を構築している様子（向かいホームより見る）。365日駅の営業を続けながら施工を行なっている。  
 ▲既存上家で正角材の支点桁架構を組み上げている。右側に見えるのがCLT壁柱。  
 ▲RC連壁にCLT壁柱が並べられていく様子。

photo ①~⑪ 09.design、桜建築事務所

### 受賞概要・講評

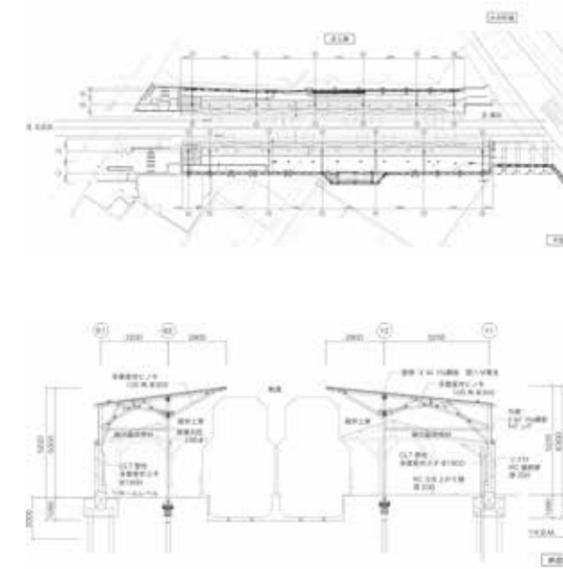
品川区に所在する東急池上線旗の台駅のホーム上家リニューアル工事。多摩産材をホーム上家の垂木（製材）や壁面（CLT材）へ活用している。既存屋根を残したまま、その上部に新しい屋根を組み上げ架構とすることで、電車の運行・駅施設の利用を維持しながらの建替工事を達成した。

本作品については「105角製材とCLT材を適材適所に活用し、利便性のある美しいデザインにまとめられている点」「都市の風景として印象的で、木の温かみや包まれ感を感じる点」等が評価された。

### メンテナンス性と意匠性を両立させた設備計画

駅施設・上家においては、照明器具以外にも通信・信号系の機器や運行表示器など、多種多様な設備機器が添架される。本施設では木の良さが感じられるように構造材をあらかしとしている。あらかしであるがゆえ、とすれば設備配線類が露出し、煩雑な印象を与えることに繋がりがねないが、そのようにならないよう、メンテナンス性ももちろんのこと、見え掛かりを考慮し、支点桁架構内部に配線ルートを設けるなどの工夫を施している。

照明計画においては、木のあたたかみをより感じられるよう、同路線の他駅に比べ色温度を低く設定した。灯具についても、正角材の支点桁架構の検討の際に、器具のサイズや取り付け角度など、詳細な検討を重ねた。これらの設備計画を建築と一体的に進めることで、意匠と機能性を両立したホーム空間を実現した。





### 03

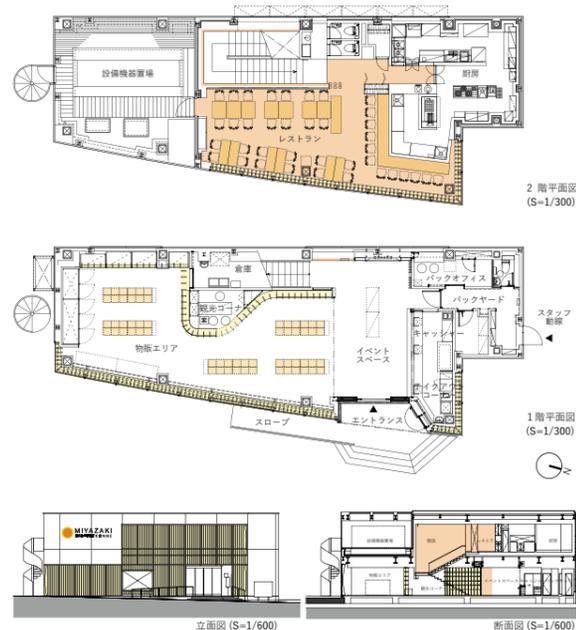
## 女性活躍賞・奨励賞 新宿みやざき館 KONNE

おびすぎ  
「飢肥杉の魅力」を生かした宮崎県のアンテナショップ

**受賞者**  
女性活躍賞  
大成建設株式会社一級建築士事務所 藪 由香  
奨励賞  
設計者・施工者 大成建設株式会社一級建築士事務所

新宿に建つ宮崎県のアンテナショップを、オープン 20 周年の節目に改修。

全国トップの日照時間と日本一の杉生産量を誇る宮崎県のコンセプト“日本のひなた”をテーマに、R 形状の県産杉ルーバーで日射と視線をコントロールして、直接光による商品の劣化防止や内外の視認性に变化をもたらした。木漏れ日のような照明や県の名所を連想させる素材により、宮崎らしさを表現している。

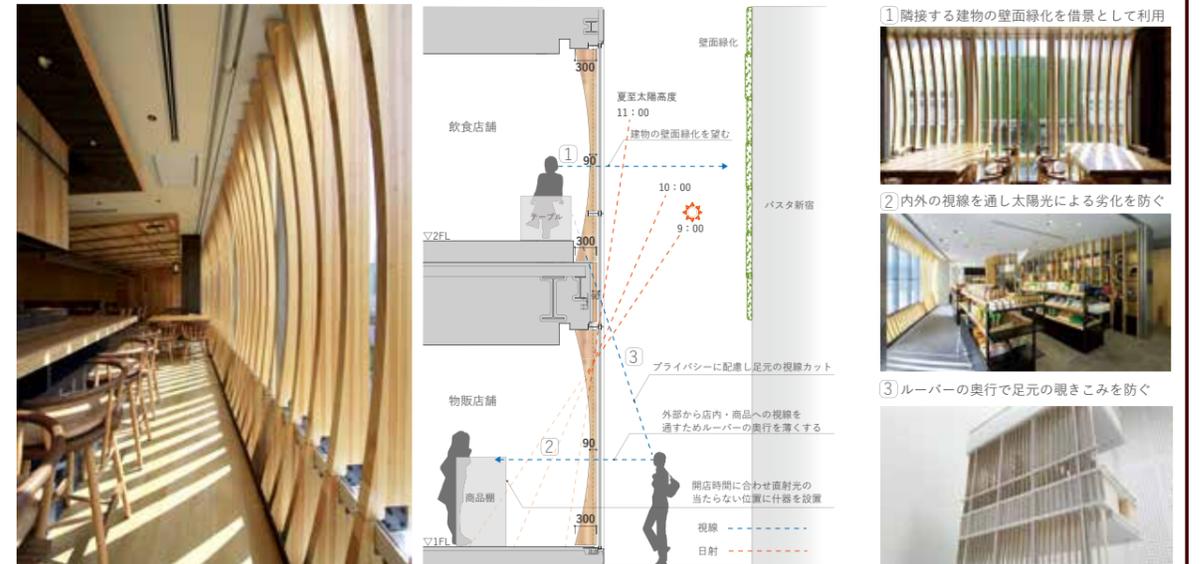


data		杉材使用箇所	
所在地	東京都渋谷区代々木 2-2-1	建築面積	170.25㎡
主要用途	物販店舗・飲食店舗	延床面積	289.88㎡
構造規模	鉄骨造・地上 2 階	店舗面積	物販：167.79㎡ 飲食：122.09㎡
敷地面積	24,920.8㎡ (新宿サザンテラス全体)	最高高さ	8.7m



### 「木材」の可能性を追求する

店内に林立する杉は“飢肥杉（おびすぎ）”と呼ばれる県産杉を地元の材木工場で加工したもの。本計画では、反りや曲げによる割れを考慮して集成材を採用し、内装材に活用することで外気や雨による汚れを回避している。杉ルーバーの形状は、アイレベルに合わせた「視認性の検証」と太陽の角度と方位による時間ごとの「日射の検証」から、ロールスクリーンを使わずに視線と日射をコントロールした。外部から商品が見えること、直射光を遮ることを考慮してルーバーの厚みを 45mm、ピッチを 194mm とし、端部で強度を保ち、アイレベルはルーバーの奥行きを 90mm とし、2 階では隣接する建物の壁面緑化を借景に望めるようにした。また、足元は覗き込みを防止するためにルーバーの奥行きを 300mm としている。同様に、1 階天井辺りのルーバーも 300mm とすることで、開店時に直射光が商品に当たらないように制御した。このように「見せること」・「見せないこと」・「遮ること」をルーバーの形状で解決し、機能的なファサードを実現している。



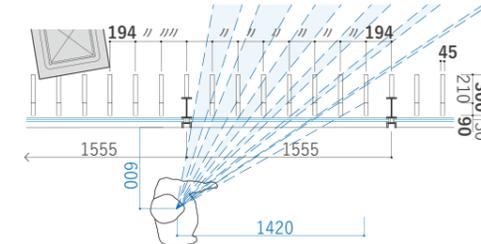
### 視線・日射シミュレーション

検証では模型を使い、夏至の太陽高度に合わせた時間ごとの経過を測定した。実際に光を当てると、開店前 (9:00) は什器下段に日射が当たり、開店時間 (10:00) になると什器に当たらないことが確認できた。

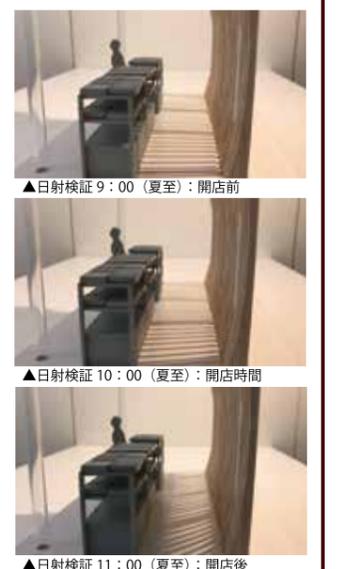
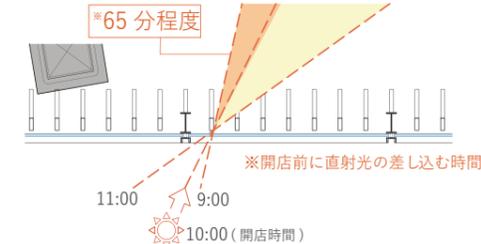
さらに、店内の様子は外からの見え方によって異なった表情をつくりだす。“ひなた”によって照らされ、奥行きを感じさせる視覚効果を生み出した。

このように、独自の R 形状の杉ルーバーによって視線と日射をコントロールし、直射光による商品劣化を防ぎつつ、内外で心地よく視線が繋がる、周辺環境に馴染む建築を目指した。

#### 外部からの視線性の検証



#### 時間ごとの日射の検証



#### 受賞概要・講評

本作品は渋谷区に所在する宮崎県のアンテナショップが、オープン 20 周年の節目にリニューアルを行ったもの。宮崎県のコンセプト“日本のひなた”をテーマに、県産材の「飢肥（おび）杉」を内装のルーバーや什器等へ活用し温かみのある店舗を作り上げた。

#### 【女性活躍賞】

藪氏は本作品の設計担当者として、施主及び施設運営者とのワークショップを通じ、既存店舗が抱える課題の解決へ向け尽力した。また施設の女性スタッフと意見交換を重ね、商品の陳列方法の改良等を行い、リニューアル前と比較し約 1.4 倍の売り上げにも貢献した。

#### 【奨励賞】

本作品については「シンプルだが柔らかさを感じさせるルーバーの曲線的なデザイン」「実証実験を経て、ルーバーで日射と視線のコントロールを実現した点」等が評価された。



## 04

### 奨励賞 東急池上線池上駅

受賞者  
 施主 東急電鉄株式会社  
 設計者 株式会社東急設計コンサルタント  
 施工者 東急建設株式会社

池上駅は約100年前に池上本門寺への参拝客の輸送を目的に開業した。構内踏切は橋上駅舎化で解消し、南口や自由通路の新設でまちの分断解消を実施した。駅舎デザインは地域特性にあった「門前町」をイメージし、多摩産材の積極的な活用により木の温かみを感じられる空間を演出した。地元の方にも愛された旧駅舎の古材「えきもく」を活用した地域連携を積極的に仕掛け、ベンチ制作のワークショップやホームベンチの自作キット配布を行うとともに、行政施設や駅ビルの共用部、テナント内でも姿を変えて活用している。



壁・天井に木を使用しヒューマンスケールで温かみのあるホーム



ホームからコンコースまで連続する木質空間



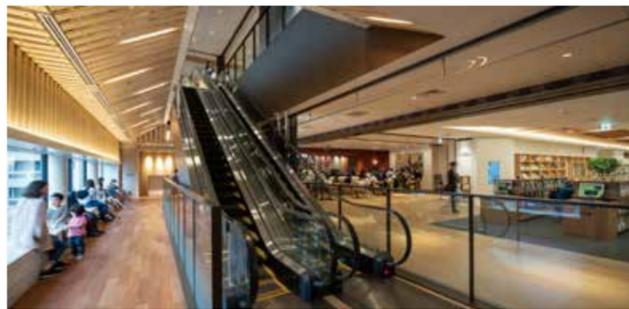
ホルダーを配し視線を制御したコンコースのトイレ



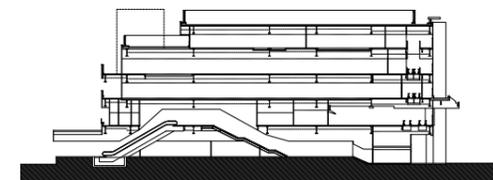
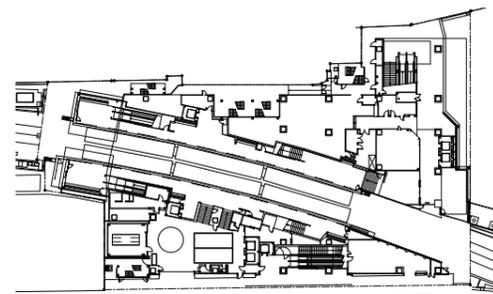
温かみのある灯りを配し行燈照明がまちを照らす外観



庇の軒裏の木とホルダーが木の温かみ強調する池上仲見世



ホルダーに囲まれ、まちの居間として機能する窓辺のベンチ



図面1/1400

### みんなのえきもくプロジェクト

旧木造駅舎の解体工事で発生する廃材処理時のCO2削減に向け、工事で発生した「えきもく(旧駅舎の古材)」を再活用する取組みを実施した。「えきもく」にてベンチ制作のワークショップ実施やホームベンチの自作キット配布も実施し、地域行政施設や駅ビルの共用部やテナント内でも姿を変えて活用している。



えきもくで旧駅舎のベンチを復元したコンコースのメモリアルコーナー



えきもくを使用したテナント(池上図書館)内の内装



えきもくを使用したベンチ制作のワークショップ

### 受賞概要・講評

大田区に所在する東急池上線池上駅の駅舎改良工事。多摩産材のスギでホーム壁・天井を覆い、池上線の特徴である木造駅舎の記憶を継承している。また上階の商業エリアにも木材を活用し、駅と一続きの空間となるようデザインしている。

本作品については「駅全体でデザインに統一性があり、心地よい空間となっている点」「木の板張りによる印象変化は、他の駅舎でも導入しやすい点」等が評価された。



## 05

### 奨励賞

#### くほんぶつじょうしんじえんまどう 九品仏浄真寺閻魔堂

#### 受賞者

施主 宗教法人浄真寺  
 設計者 大成建設株式会社一級建築士事務所  
 施工者 大成建設株式会社 東京支店

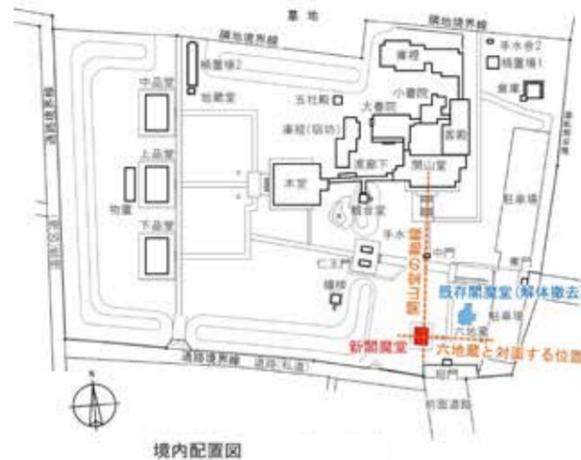
九品仏浄真寺は世田谷区奥沢の閑静な住宅街に在り、1678年創建の浄土宗の名刹である。今回の計画は、境内にある既存閻魔堂の老朽化に伴う建替である。施主から、「出来るだけ接合金物を使わず伝統的な木組みによる工法としたい」という要望から構造設計者とも検討を重ね落し込み板壁を提案した。ただし、従来の落し込み板壁では構造耐力が不足することから高性能落し込み板壁※「T-WOOD 組み板壁」を開発し答えた。これにより柱脚金物のみとすることが出来た。境内の建物は浄真寺を開いた河碩上人の弟子の珂憶上人が指揮したこと「珂憶造り（かおくづくり）」と呼ばれており、太い柱とてりむくりの茅葺き風の屋根が特徴的である。この閻魔堂も境内の建物と調和するように珂憶造りに倣いどっしりとした太い柱と茅葺き風のてりむくりのある銅板屋根で仕上げた。

使用した木材は施主の希望で化粧・造材は青森県産のヒバとし、小屋組み・下地材は岐阜県産のヒノキ、スギを使用した。深い軒と大屋根、太い柱、板壁、簡素な軒組み物などシンプルな作りながら安定感があり迫力のある外観とした。内部も閻魔像に負けない力強い四天柱や青森ヒバの芳香や木肌など五感に訴える建物とした。



### 緑に囲まれた境内と浄真寺の文化財

浄真寺の境内地は、元は奥沢城（世田谷区指定史跡）があった場所で、現在も当時の土塁跡が残されており、緑に囲まれた自然の要塞のようにも思える。約1万坪の境内には26棟の堂宇が建立されており、多くは木造の歴史ある建物である。中でも三仏堂と称される阿弥陀堂（世田谷区指定）が有名で、「九品仏」の名にも由来する九体の阿弥陀如来像（東京都指定）が三棟の阿弥陀堂に各三体ずつ安置されている。また、三年に一度行われる「阿弥陀如来二十五菩薩来迎絵（お面かぶり）」（東京都指定無形民俗）と呼ばれる練り供養があることでも有名である。現世と来世に見立てた本堂と中央の上品堂とに仮橋を掛け、阿弥陀様の来迎を表現したものである。境内の庭は趣があり丁寧に整備され、四季ごとに彩りを変え、訪れる参拝者に癒しと活力を与えてくれるパワースポットでもある。

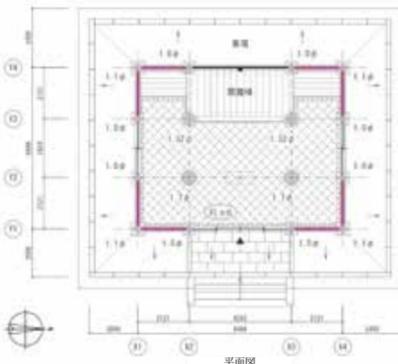


#### 閻魔堂の配置計画

新聞魔堂をどこに配置するか、境内の既存建物とのつながりや関係性をより明確にするため施主の希望も考慮し検討した。結果、既存の閻魔堂から参道を挟んで向かい側のちょうど開山堂の軸線と六地藏の軸線の交点に決まった。総門を入ってすぐ左手に場所を移し訪れる参拝者を出迎えている。

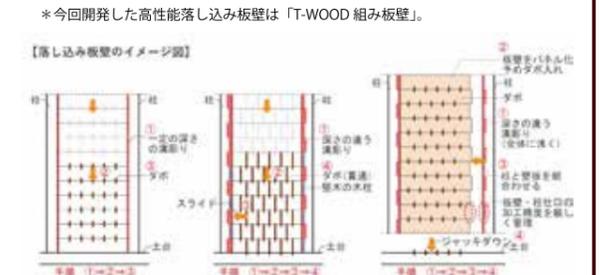
### 耐力壁の配置

建物外周部の四隅をL型に高性能落し込み板壁による耐力壁とした。今後の閻魔堂の耐用年数と安全性を考慮し、基礎はFc=36の超長期のコンクリートを使用した。屋根は銅板葺きとし、小屋組みは伝統的な和小屋とした。2.45メートルある深い軒は、枯木と化粧垂木を用いて支える架構とした。



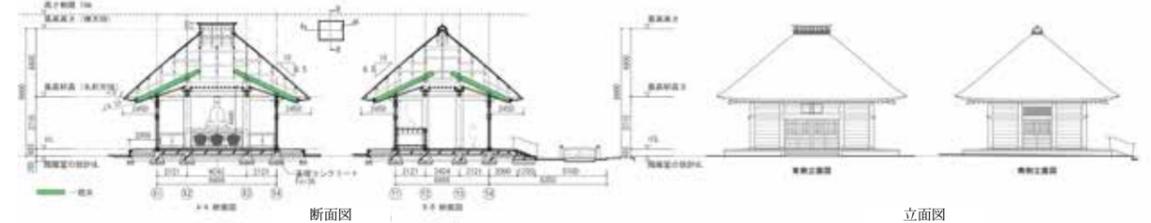
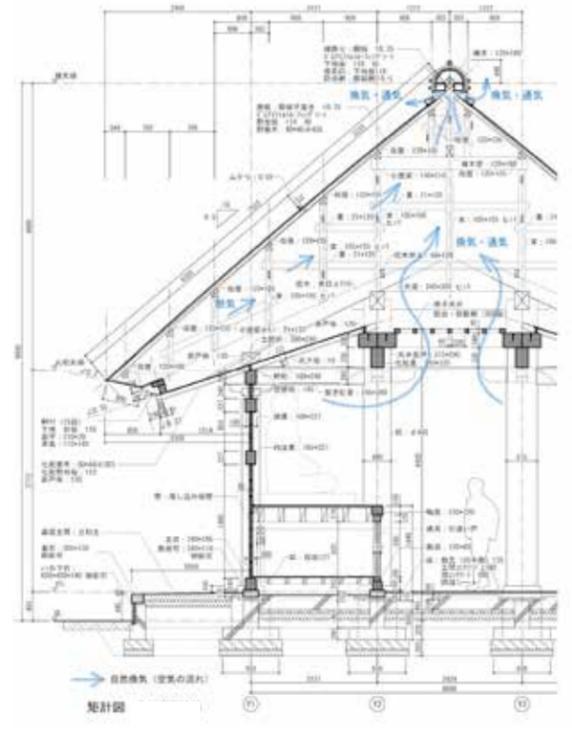
### 高性能落し込み板壁\*

従来の落し込み板壁は、柱に一定の溝を彫り、ダボを入れながら壁板を落し込む。今回開発した高性能落し込み板壁は、柱に深さの違う溝を交互に彫り、壁板を落し込んだ後、深い溝にスライドさせて組み合わせ、壁板の上部からダボ穴を貫通させダボを打ち最後に柱際に木栓を打ち締め付ける工法である。これにより、ガタ付を低減した高性能な落し込み板壁となる。更に今回は作業性を考慮し、事前に壁板同士をダボを入れて繋ぎパネル化し、柱際の木栓を打たない改良案とした。柱には深い溝と浅い溝があるのは同じだが、全体に浅く柱の欠損を少なくした。加工・組立の精度を厳しく管理し対応した。



### 閻魔堂の設備・換気対策

室内は自然な通気による換気とした。南北の開口上部の菱格子は常に開放された欄間で、堂内に入った空気は、天井板を張っていない中央の格子天井部分から小屋裏を通り、棟飾りに設けた換気口から抜けるようになっており、木材の湿気による腐れやカビの発生にも有効な対策とした。小屋裏に溜まった熱気なども自然に上昇し、同様に換気口より放出され、木材の耐久性・長寿命化にもつながると考えた。



#### 受賞概要・講評

世田谷所在の浄土宗寺院の閻魔堂が、老朽化に伴う建替え工事を行ったもの。青森県産のヒバを化粧材・造材材に、岐阜県産のスギ・ヒノキを小屋組材・下地材に活用している。伝統的な落し込み板壁の工法を改良し、十分な構造耐力を維持する一方で接合金物の使用を最小限に留めた。本作品については「改良工法での板材の組合せにより、一般的な材を使用しながらも耐震性を確保している点」「都市部へ伝統工法による木造寺院が建てられることの文化的価値」等が評価された。



## 06

### 奨励賞

## 町田薬師池公園四季彩の杜 西園ウェルカムゲート

#### 受賞者

設計者 山田伸彦建築設計事務所・株式会社スタジオテラ設計共同体

### 公共空間の新しいデザインプロセス

2016年に公募型プロポーザルで選定され2020年に竣工、コロナの影響もあったが、2020年6月オープンした。設計者がプロポーザル時に訪れた敷地は、既存の薬師池公園の隣接地で、土と雑草の裸地として取り残されたような土地で一部駐車場として使われていた。しかし20mの登った先には、前面道路からの音も消え、北側に望んだ里山風景に心を奪われた。建物を道路沿いに配置して国道の存在を敷地中腹あたりで消すことで、道路を挟んで南側にも広がる里山風景を心理的にも物理的にも繋げることができるのではないかと考えた。厚みのある敷地外も含めたこの風景に対して、それほど大きなことをしなくても、魅力を顕在化させてこの敷地のポテンシャルを生かせるのではないかと、そう考えて設計をした。

本施設は、町田市(人口約42万人)の中心市街地から5km内(車で約15分程度)に位置する町田薬師池公園四季彩の杜エリアに整備された公園である。丘陵地特有の起伏に富んだ地形と、かつて落葉樹の雑木林が残る自然豊かな四季彩の杜エリアにある。本計画は町田市の公共施設であり、その整備にあたっては同市からそれぞれに業務委託をされた「ブランディングマネージャー」と「建築設計事務所とランドスケープ事務所」の設計共同体が連携。町田市とともに、ブランディングマネージャーが四季彩の杜エリアと西園のコンセプト、敷地の活用方法から施設のプログラムを設定し、それらを条件として、相談、協議、意見交換をしながら設計共同体が空間デザインを同時に取り組むことができ、プロジェクトにおいて一貫性を確実に実現できた稀有なプロジェクトであると考えられる。事例の視察や敷地調査をはじめ、各業務進捗などは関係者全員での共有し、計画を進めた。

複数の公園等で成る対象地の核と成る複合施設を整備し、認知度と回遊性の向上が目的とされた。このエリアの情報発信とバラバラに見えていた薬師池公園エリアのブランドの統一、消費/滞在/無目的に過ごすことの出来る、一見相反する内容の滞在をかなえることを目指した。またそれだけではなく、計画では雑木林に囲まれたかつての人の暮らしや営みが感じられる持続可能な風景を目指し、場所の地歴やポテンシャルを読み解きながら、斜面地の地形に沿った分棟型の建物配棟やランドスケープを含めた造成と修景計画を行い、集落感と回遊性を持たせるための場にあった適切な空間の在り様(プログラム、ボリューム、位置等)を提案した。

薬師池エリアの「ハブ」としての西園ウェルカムゲート



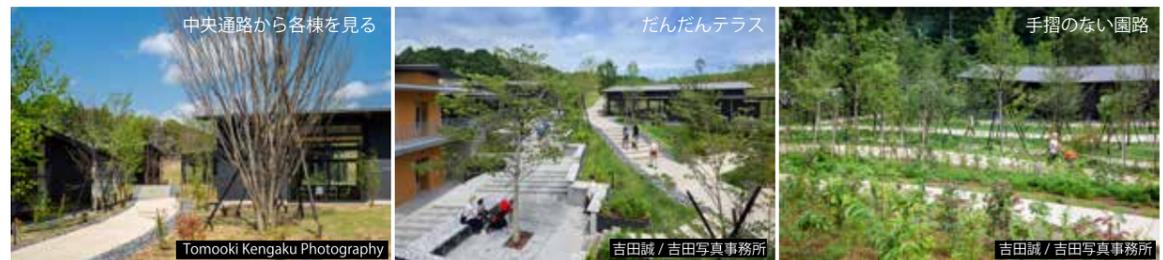
チームの編成と取り組み概要



### 斜面地の配置/配棟計画、園路

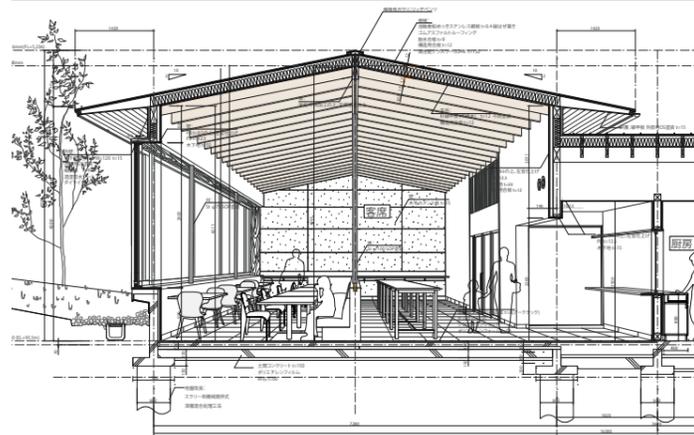
町田市産の野菜などの物販や近隣エリアの公園、施設の情報案内機能を併設した「インフォメーション/直売所」、公園の無料休憩所機能を持つ「ライブラリー・ラウンジ(無料休憩所)」が前面道路の駐車場ラインと等高線をなぞるように配置されている。高低差約3mの道を上がると「カフェ・レストラン」、時間貸しなどができる多目的スペースである「ラボ・体験工房」の建物機能を配置している。一部もとの敷地で1.5mの段差のあった部分を擁壁を兼ねたエレベーター棟で上下の建物間のバリアフリー動線を確保。この高低差を緩やかにつなぐ要素として、だんだんテラスを設え、建物同士や奥の公園敷地に対しての様々なアプローチを設計した。敷地の中でのボリュームの見え方、窓と窓の向こうに見える景色をスタディし、ボリューム間を繋ぐ間の居場所として設計している。

約20mの高低差がある敷地全体に緩勾配(4%)の園路を計画し、誰もが丘陵地を往来できる設えとした。緩勾配としたことで手摺が不要となり、園路からはベビーカーや車椅子利用者の視界を遮ることなく、豊かな自然風景を見渡すことができる。



### 構造的な工夫

-プロポーションや気持ちのいい空間を違和感なく実現するための5つのポイント-



① 木造の切妻屋根の形をそのまま内部空間としている。屋根を支持する垂木を露出すること(インフォメーション棟/カフェ棟)で、天井を省略するとともに、空間にリズムを与えている。

② 大スパンを可能にするため、補助的に棟木は鉄骨材(25×400mm)を用いている。(物販棟-最大10,920mm、カフェ棟-最大7,280mm、ラウンジ棟-最大7,735mm、ラボ棟-最大10,920mm)技術が前に出過ぎない、人の営みに寄り添ったデザインにしている。

③ 高低差のある土地の特徴を生かし、過度な造成を避けるため布基礎を採用。

④ カフェ棟北側の窓は、室内を全面開口とするため耐力壁は外部の妻面に配置し、客席の端から端まで、芝生広場を一望できるように考えている。

⑤ 建物高さに対して軒の出のプロポーションを維持するため、通常の木造住宅よりも軒の出を大きくしている。深い庇は、雨よけだけでなく、人々が軒下でも溜まれるように考えている。

### 工程の調整によるインテリアデザインまで含めたデザインコントロール

公共の指定管理制度の中に積極的に設計者チーム+町田市が介入し、今までの指定管理者が民間事業者として蓄積したノウハウに頼るのではなく、チームが将来の公園像までを含めたニーズに応えるためにコーディネーター、コラボレーションし、経費削減の優先による質の低下や多様なプログラムが故に指定管理者の専門外の分野に対しての運営などでの魅力低減を避け、民間施設とも遜色のない魅力のある施設になるように考えた。

公共の施設ではなくは出来ない機能(無料休憩所など)を備えることや、将来までを見据えた雑木林の育成など近視眼的なプロジェクトではない短期と長期を両立するプロジェクトとなった。PFIなど公民連携の手法も注目されているが、従来の指定管理制度の中での最大限の工夫により、より良い施設立ち上げの手法の1つとなり得ると考えられる。

### 照明計画

夜間でも来訪者が訪れられるような設計を行っている。一方で動植物に配慮し、斜面地の部分は、舗装面を照射する程度の最低限の庭園灯としており、見上げにも配慮して、庭園灯の背後には植栽を配植し目立たない様にした。アッパーライト等の演出照明も最小限とし、タイマー制御で消灯する計画となっている。



### 受賞概要・講評

町田市に所在する公設民営の分棟型複合施設。薬師池公園四季彩の杜エリアの玄関口であり、国産のスギ・ヒノキを施設内のカフェや直売所等の各棟へ構造材・内外装材として活用している。在来木造を基にスケール感を綿密に調整し、公共空間として親しみやすい場所づくりを目指した。

本作品については「ランドスケープを考慮した優れたデザイン性」「元々の地形を活かした回遊性を確保している点」等が評価された。





©parkERs from park corporation

## 07

### 奨励賞

## parkERs office

#### 受賞者

施主 株式会社パーク・コーポレーション parkERs  
 設計者  
 施工者

#### 人の感覚を呼び起こす仕掛けのあるオフィス

「未来の公園を“体感”できるワークプレイス」をコンセプトに、空間デザインブランド parkERs（パークーズ）がデザインした自社オフィス空間。

機能的でインフォーマルな交流を生むインドアパーク、発散思考を促し自由な発想を生むアウトドアパーク、木立に包まれ集中へと導くフォレストパークの3タイプの公園でゾーニングし、心情や目的に合わせて環境を選べるようにした。

「花・緑・水・石・木・光」など公園の心地よい要素を用いて空間づくりを行なう独自のデザイン手法の中で、素材感や温もり、有機的な自然の形状に触れることで五感が刺激され創造力が高まることを意図して、東京都檜原村の間伐材をはじめとする国産材を活用し、新しいオフィスの木質化を図った。



#### なぜ檜原村の木材を使うのか

オフィスの内装デザインには、東京都檜原村で採れた間伐材（スギ・ヒノキ・サワラ・ケヤキなど）を多数使用している。これは商品としての使用価値が低く、廃棄されてしまうような間伐材を使用し、新たな価値（家具としての機能や意味）を与えることを目的としたアップサイクルな取り組みである。また木材は譲渡ではなく購入することで、今後自社のオフィスをきっかけに他社のオフィス等でも導入の希望があった際には、これまで廃棄されていた木材に商品として価値をつけられるようなビジネスの仕組みも構築することを重要視した。

東京にオフィスを構える企業として、東京産の木材にこだわり、そしてその魅力を伝えることも、見た目だけのデザインではない、森林の行先を見据えたデザインとなっている。



東京都檜原村で、間伐材を生み出す森を見学した様子▶

#### 枝や樹皮まで使い切る内装デザイン



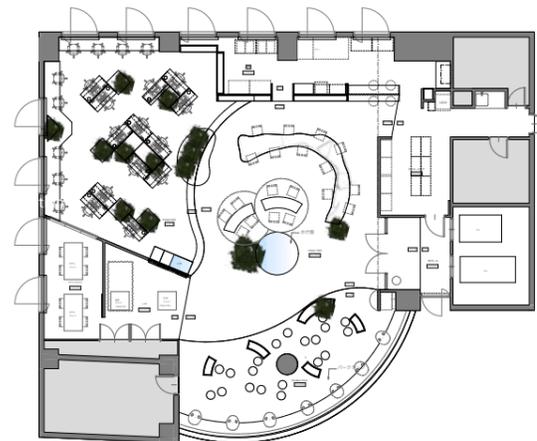
▲ケヤキの枝を吊るした会議室 ▲赤杉の樹皮を用いたプランター

#### 自然の形状を生かしたデザイン



▲素材の形そのままを生かしたトチノキの大テーブル

3.08 m<sup>2</sup>の多摩産材を使用したオフィスではCO<sub>2</sub> 1.70t分の炭素を固定していることが認められた。（みなとモデル二酸化炭素固定認証制度）木材をオフィス内で活用することで炭素を一定期間固定させ、CO<sub>2</sub>を削減し、さらに多摩産の木材を使用することで地域の森林整備の促進に貢献している。



▲トチノキの異なる表情を見せるミーティングテーブル



▲割れや生き物の跡もあえてそのままに

#### 受賞概要・講評

港区に所在する、空間デザイン事業を展開する会社の自社オフィス。東京都檜原村産のスギ・ヒノキ・サワラをウッドチップやスツール、パーテーションへ活用している。木材以外にも植物や花、水等の自然物をオフィス内へふんだんに取り入れ、居心地のよい空間をデザインしている。

本作品については「木による癒しの空間として、今後必要とされる好事例である点」「木と自社との繋がりを分かりやすく表現している点」等が評価された。



© YOSEIDO PLANNING & PROMOTION CO.,LTD.

08

## 奨励賞 YOSEIDO 銀座店

### 銀座に白樺の森をつくる

KOIVE という新たなブランドを発信するため、東京の中心地である銀座に白樺の森を再現した。化粧品原材料である白樺樹液は1年のうち雪解け時期のたった2~3週間にしか採取できない貴重な樹液である。採取後は幹に栓をし、次の雪解けに採取するというサステナブルな方法で調達されている。内装には、北海道池田町の白樺丸太をはじめ、多くの白樺材を使用した。従来、主にパルプ材として消費されてきた白樺を内装材に利用することで、白樺に新しい資源としての意味を付与した。さらに、内装材としての利用を終えた後もチップやノベルティとして再利用し、持続的に白樺を活用していくことで、ブランドがもつサステナビリティを表現している。

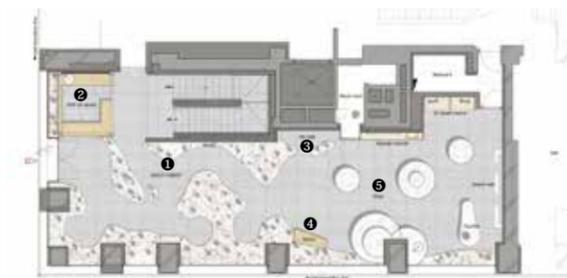


受賞者  
 主 株式会社養生堂企画  
 設計者・施工者 株式会社ベネフィットライン

## ブランドの発信拠点

### ▼1F: KOIVEFOREST

メインエントランスから白樺の森を抜けると現れるショップエリアではKOIVEの実際の商品に触れることができる。白樺の森には訪れた人を楽しませる様々な仕掛けをしている。



**1 KOIVE FOREST**  
 メインエントランスを入ると、まずは白樺の森が出迎えてくれる。  
 奥が見通せないほどの白樺、そして1F全体に配置されたサウンドシステムから流れる自然音により、まるで北欧の森に迷い込んだような没入感を演出。  
 白樺の木々にはスマホと連動したデジタルコンテンツや化粧品の主原料である白樺樹液の採取風景を再現したコーナーなど、森を訪れた人を楽しませるコンテンツを用意している。  
 北海道池田町産の白樺丸太を使用。

### ▼2F: KOIVECAFE

カフェエリアではKOIVEにも使用されている白樺樹液を用いたドリンクなどインナービューティを提供。内装は北欧の湖畔のカフェをイメージし、ゆっくり落ち着ける空間を提供している。



**1 CAFE**  
 北欧の湖畔のカフェをイメージした2Fは白樺材を豊富に使い、また座間もゆったりと取ることでゆっくり落ち着ける空間を演出した。木製テーブルの天板はもちろん、チェアについても北海道産の白樺材でできたものを中心に使用している。



**2 POPUP BOOTH**  
 エントランスのファサードからも見える位置にフィンランドのサウナ小屋を意識したポップアップブースを設けた。他ブランドとのコラボや新商品の発表などその時々にあわせていろんな用途に使えるような場所としている。仕上げは北海道産の白樺突板を使用している。



**3 ART WALL**  
 森の終盤にはメイクアップアーティストサトウケンジ氏によるアートウォールが設置されている。白樺の幹越しに写真撮影ができるフォトスポットを設け、ついつい共有したくなるポイントになっている。



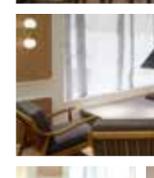
**2 CAFE**  
 窓際には白樺丸太とシアーカーテンを設け、霧のかかった湖畔から見える白樺の森を再現している。また、エントランスドア・壁造り材にも北海道産の白樺突板を使用している。



**4 BENCH**  
 アートウォールの前には森を抜けた人が一息つけるようなベンチを設けている。ベンチは北海道で製作された特注品で、座面と脚は白樺の無垢材・立上りは白樺樹皮をヒモ状に剥いた樹皮テープを巻きつけている。



**5 SHOP AREA**  
 森を抜けると、実際にKOIVEの商品に触れることができるショップエリアがある。正面のブランドウォールはKOIVEのパッケージをイメージしたシェルフになっており、白樺と光が湖畔の水面をイメージした天井の波板に映り込むようになっている。



**3 FIRE PLACE**  
 カウンター側の座席には暖炉をイメージしたローチェアを座席を用意した。ゆったりとした大きさの椅子に腰掛けると他の席と視線を変えることでより落ち着いた時間を過ごすことができる。



**4 HOVEL**  
 店の一番奥、白樺材でできたゲートをつくると少し籠もったスペースがある。他とは床材も椅子の意匠も変えることで、少し特別感のある座席とした。



**5 PHOTO SPOT**  
 白樺材でできた本棚の中にも座席を作り、通路前でも落ち着けるよう少し籠もったスペースを作った。本棚には1F同様サトウケンジ氏によるトリックアートを設けて、写真が撮りたくなるコーナーにした。

### 受賞概要・講評

中央区に所在する美容関係のショップやカフェが内設された店舗。北海道産の白樺を丸太のまま内装材に取り入れたほか、カフェの家具・什器等にも活用している。内装材の白樺は使用後、チップやノベルティとして再利用することによりサステナビリティを表現している。

本作品については「白樺の色味を活かし、女性的で上品な世界となっている点」「銀座の通りから店内が見え、木の普及効果が期待できる点」等が評価された。



# 09

## 奨励賞

エイチワンオー  
**H<sup>1</sup>O 平河町**

### 受賞者

施主 野村不動産株式会社  
設計者 野村不動産株式会社一級建築士事務所  
施工者 戸田建設株式会社東京支店

### 目的

世界の森林保護に参画できるオフィスビル

事業地である東京都の木材「多摩産材」を用いて、外装ガラス面を内側から320㎡のルーバーで覆った。内外の双方から木を感じさせる佇まいを表現している、自然（木材）が本来持つ優しい印象を活かしながら野村不動産のオフィスビルのコンセプト『ヒューマンファースト』の観点でファサードを創り上げた。また内部空間でも木材を豊富に使用し、「ストレス軽減」「健康増進効果」等を増進したWell-Beingなオフィス環境を確立している。さらに“割れ”“ささくれ”“ねじれ”等の経年変化を考慮し、オフィスワーカーの目に触れながらも手に届かない箇所に設置。ルーバーを視線の上部に配することで、視界を遮ることなく日射遮蔽の効果を高めると共に、設備負荷を軽減やCO<sub>2</sub>削減にも寄与している。

社会的な違法伐採が問題となっており、木材は使うだけでなく『出所』を知る事も重要であると捉え、森林認証制度、SGEC/PEFC プロジェクト CoC 認証に取り組み、森林管理認証を取得した「持続可能な森林」から、生産物認証を取得した業者が木材の加工・流通を行い消費者の手元に届くといった「認証の連鎖」を確立。事業者ワーカーに安全を届けながら、世界の森林保護に参画できるオフィスを構築した。



## 認証制度



取得した認証ロゴは入居したテナントの名刺等に記載できる取り組みを併せて行い、テナントの企業価値を高める要素として活用



## 他木材利用とCO<sub>2</sub>削減への貢献

「ストレス軽減」「健康増進効果」等を増進したWell-Beingなオフィス環境

木材は林野庁の木材科学データに立証されているリラクゼーション効果や知的生産性の向上の効果がある。

木材や緑化をインテリアに取り込むことでWell-Beingなオフィス環境を確立。外観、専有部、ルーバーだけでなく、共用部の床、壁、天井、造作家具、既製家具に木材を採用した。



## CO<sub>2</sub>の削減・固定化に取り組み、脱炭素社会に貢献するオフィスビル

木材の使用だけでなくカーボンオフセット品を採用するなど、CO<sub>2</sub>削減・固定化に取り組むと共に脱炭素社会に貢献するオフィスビルを目指した。



### 受賞概要・講評

千代田区所在のテナント型オフィスビル。外装ガラス面の内側が多摩産材の杉を活用したルーバーで覆われている。森林保護にも取り組み、不動産ディベロッパー及びオフィスビル分野では初めての「SGEC/PEFC プロジェクト CoC 認証」を取得した。

本作品については「ルーバーを各フロアに導入したことで、配置はシンプルだが外観に統一感が出ている点」「高層ビルへ木を印象的に取り入れ、環境に配慮した好事例である点」等が評価された。

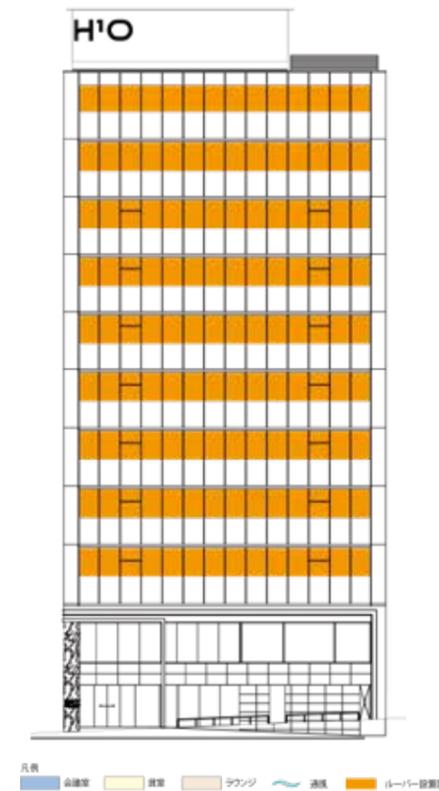
## 1階



## 基準階



## 立面図



# ウッドシティTOKYOモデル建築賞 受賞作品所在地情報



## 01 最優秀賞 株式会社三浦工務店本社ビル

〒120-0003 東京都足立区東和 3-14-25

### アクセス

東京メトロ千代田線「綾瀬駅」下車  
西口東武バス3番乗場より「綾32」「綾33」系統利用  
「東和住区センター入口（降車専用）」バス停下車徒歩1分

### 施設見学について

施設見学をご希望の際は株式会社三浦工務店  
(TEL: 03-3605-2313 FAX:03-3605-3744)  
担当: 大場 までご連絡ください。

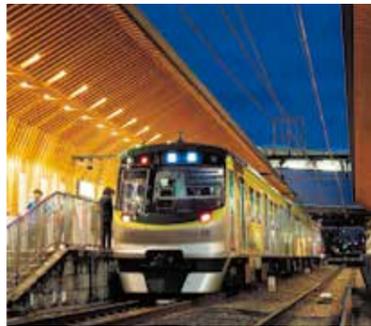
### URL

株式会社三浦工務店 WEB サイト  
<http://www.miura-k.co.jp/approach/newoffice.html>



株式会社浅井アーキテクツ一級建築士事務所  
WEB サイト

<https://asai-architects.com/%e4%b8%99%e6%b5%a6%e5%b7%a5%e5%8b%99%e5%ba%97%e6%96%b0%e7%a4%be%e5%b1%8b/>



## 02 優秀賞 東急池上線旗の台駅

〒142-0064 東京都品川区旗の台 2-13-1

### アクセス

池上線「旗の台駅」

### URL

<https://www.tokyu.co.jp/railway/station/info/Pid=61.html>



### リニューアル工事について

<https://ii.tokyu.co.jp/safety/hatanodai-station-renewal?hsLang=ja>



## 03 女性活躍賞・奨励賞 新宿みやざき館 KONNE

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-2-1 新宿サザンテラス内

### アクセス

JR・小田急線・京王線他「新宿駅」南口より徒歩3分  
「新宿駅」甲州街道改札または新南改札より徒歩2分  
都営地下鉄「新宿駅」A1出口より徒歩2分

### 施設見学について

1 階店舗の営業時間は 10:00～20:00、  
2 階飲食店の営業時間はランチ 11:00～15:00、ディナー 17:00～23:00 です。  
(営業時間は随時変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。)  
お買い物やお食事を楽しみながら施設をご覧ください。

### URL

<https://www.konne.jp/>



## 04 奨励賞 東急池上線池上駅

〒146-008 東京都大田区池上 6-3-10

### アクセス

池上線「池上駅」

### URL

<https://www.tokyu.co.jp/railway/station/info/Pid=79.html>



### 「みんなのえきもくプロジェクト」

<https://ii.tokyu.co.jp/safety/ekimoku>



## 05 奨励賞 くほんぶつじょうしんじえんまどう 九品仏浄真寺閻魔堂

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 7-41-3

### アクセス

東急大井町線「九品仏駅」より徒歩約4分  
東急東横線「自由が丘駅」より徒歩約15分

### URL

<https://kuhombutsu.jp>



### 施設見学について

境内の参拝は自由です。  
開門時間は 6:00～16:30 です。  
寺務所受付・御朱印受付は 9:00～16:00 となります。



## 06 奨励賞 町田薬師池公園四季彩の杜 西園ウェルカムゲート

〒194-0032 東京都町田市本町田 3105

### アクセス

小田急線「町田駅」よりバス（野津田車庫行き）で「今井谷戸」下車後、徒歩3分  
所要時間約30分

### URL

<https://machida-shikisainomori.com>



### 施設見学について

営業時間に関して、  
「インフォメーション / 直売所」 午前9時～午後5時  
「カフェ・レストラン」 午前10時～午後6時（※営業時間は都度ご確認ください。）  
「ライブラリー・ラウンジ（休憩所）」 午前9時～午後5時  
「ラボ・体験工房」 午前9時～午後9時半（イベント利用等ある日は見学できない場合があります。）  
となっております。



## 07 奨励賞 parkERs office

〒107-0062 東京都港区南青山 3-1-7 青山コンパルビル 3F

### アクセス

東京メトロ銀座線「外苑前駅」より徒歩4分

### URL

株式会社パーク・コーポレーション  
空間デザイン事業部  
「parkERs (パーク・エース)」HP  
<https://www.park-ers.com/>



### 施設見学について

法人向けオフィス見学をご希望の方は、parkERsのHP内「CONTACT」よりお問い合わせください。



## 08 奨励賞 YOSEIDO 銀座店

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目 5-1  
聖書館ビル B1,1F,2F

### アクセス

東京メトロ銀座線・丸の内線・日比谷線「銀座駅」より徒歩3分  
JR山手線「有楽町駅」より徒歩6分

### URL

YOSEIDO 銀座店 HP <https://koive.jp/>



### 施設見学について

営業時間は 11 時～19 時です。  
お買い物やお食事を楽しみながら施設をご覧ください。

### URL

株式会社ベネフィットライン HP  
<https://www.benefit-l.co.jp/shop/yoseido-ginza/>



## 09 奨励賞 エイチワンオー H<sup>1</sup>O 平河町

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-6-4

### アクセス

東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」1番出口より徒歩3分  
東京メトロ有楽町線「麴町駅」1番出口より徒歩4分  
東京メトロ有楽町・半蔵門・南北線「永田町駅」4番出口より徒歩6分

### URL

<https://h1o-web.com/officelist/hirakawacho/>



### 施設見学について

施設見学をご希望の際は下記メールまでお問合せください。  
(賃貸オフィスの為、セキュリティの観点から原則、開放はしておりません。)

野村不動産(株) 鹿郷宛 s-kakyounomura-re.co.jp

